

こんにちは。

10月4日のシューマッハカレッジ日本特別クラスで、クリエイティブアートコースの講師としてお声掛けいただき、大変光栄です。フィンドレイ麻紀と申します。



参加者の皆さまには、当日はイギリスからはるばる来日されるレイチェル・スウィーニー教授の講座、彼女との対談、コラボレーション講座を心待ちにしていただければと思いますし、私自身も大いに楽しみにしております。

シューマッハ・カレッジサポーターズのコーディネーター様から、インタビュー動画作成のご連絡をいただきましたが、ご提示いただいた日程はすべて都合がつかず、文章と写真でお願いすることになりました。

311の出来事

2011年3月11日の東北関東大震災をきっかけに、私たちは子どもの教育について深く考えるようになりました。

まずは子どもたちが日々を過ごす環境を大切にしている学校はないかと探しました。

ご縁をいただき、夫とたくさん悩み、京都の京田辺に移り住むことになりました。



座右の銘

Think Globally, Act Locally !

世界全体が生命力に満ち、大地と調和し、地球が光輝く美しい惑星であることを願いながら、ハチドリのしずくではありますが、まずは自らの足元から丁寧に実践を重ねたいという想いで暮らしています。

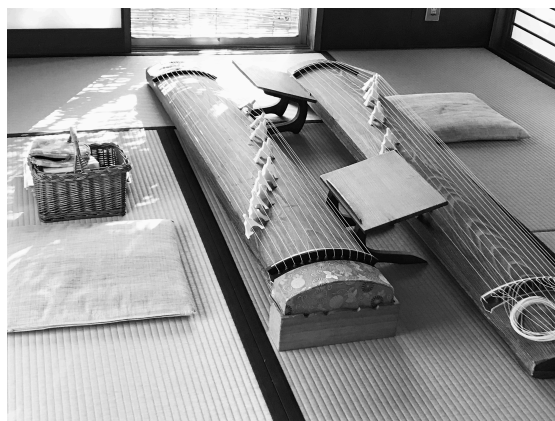
和文化、伝統芸能伝承研究会の活動

私は普段、茶道や着付け、箏曲などの教室を主宰し、またご縁をいただいた場に出向き活動しています。

若い頃、世の中に生きにくさを感じ、海外留学で逆カルチャーショックを受け、日本のことをもっと知らなければという気持ちで日本に昔から伝わっているものに関心を向けました。自分をリフレッシュさせてくれ、ときめきを感じられることを選び、細々と継続してきました。

親御さんたちから、子どもたちに和室での立ち居振る舞いや和服の基本的な着付けを指導してほしいと頼まれたことがきっかけでした。自分自身が指導側の道に進むとは夢にも思わなかったため、その数奇な展開に驚きながらも、皆さんが背中を押してくださっているような…
教えることは、教わること。

感謝の気持ちで日々を過ごしています。



私が若かった頃、箏を通して日本の懐かしい風景が浮かんでくるのが楽しく、難しくても楽しみが勝っていたので、師匠の元に通いました。

茶道においては技術的に上達することに特別な興味はなく、また先生がとても厳しかったので、正直何度かやめようと思ったこともありました。

それでもほそぼそと通えたのは、他の興味とも共通していますが、五感を使うこと…
体のことについて考えるというのは、生きることを考えることです。
せつかくこの体をいただいて生まれてきているのですから、体の隅々まで意識を巡らせ、
研ぎ澄ましていくことに関心を持っています。
それから、茶室に据えられた炉の火から活力をいただいていたのも大きかったと今では思います。
原始的ですね。



家族のような和の稽古場

私自身は二世でも三世でもなく、特別な肩書きやお師匠さんのような長年の経験も持ち合わさず、あるいは立派な設備があったり、SNS宣伝をしているわけでもない、地味な稽古場です。
それでも、こちらに何年も通ってくださるお母さま方がお子さんたちにすすめてくれたり、
その逆に長年通っていらっしゃるお子さんのことがきっかけで親御さんが来はじめたりと、
ご家族ぐるみで稽古に励まれる方々が増え、今ではこのささやかな稽古場に、小学1年生から古希を迎えられた方まで、30名近い方が集うようになりました。



濃茶の稽古に使う出し帛紗作りWSの様子

お引越しや留学、ご病気などの事情を除き、退会される方がほとんどいらっしゃらないこともあり、ありがたいことに年々会員さんの数が増えています。
若者離れが懸念される中、この規模はなかなかめずらしいと言われます。

私一人では手が回らず、今は次の世代を育てることに焦点を当てています。

育てるといっておこがましいのですが、その過程で多くの気づきをいただけ、自分自身育てられていると感じます。今では準備や片付けなど、私がいなくても皆さんが力を合わせて行ってください、お互いを尊敬し合い、譲り合い、正に和敬清寂を体現されているような…和気藹々とした素晴らしい社中です。



稽古の後にほっと一息

継続して通われる方々だけでなく、遠方から一度きりの体験稽古に訪れる方も歓迎しており、日本各地—東北から九州まで—から訪れてくださいます。

さらにアメリカやヨーロッパ諸国、シンガポールやインドなどアジア各国からも、和文化・伝統芸能を体験したいと来訪される方々が年々とても増えています。



マレーシアからの3世代ファミリー。

おじいさまに、懐かしい感じのひとときだったと言われた。

サティシュ氏の教えとの出会い

311の当時、私たちは千葉に一時的に住んでおり、ご縁があってオーガニックファーマーズマーケットを立ち上げ、実行委員長やカフェ運営を担うことになりました。

正直、子育てもあり体力的に非常に大変な日々でしたが、その短い期間に数多くの方々と出会い、選挙の手伝いもしたりしたのもその頃です。その中でも「ナマケモノ倶楽部」の方々とのご縁を通して、多くの優れた映画作品に触れ、自主上映会の開催もしていました。

あの時期、なぜあれほど情熱的に活動していたのか、自分でも説明しきれません。

内なる何かに突き動かされていたのだと思います。



自主上映した作品の中には、ヘレナ・ノーバーク＝ホッジの『幸せの経済学』や『懐かしい未来 (Ancient Futures) 』があります。

また、そのころサティシュ・クマール氏の著書にも出会い、今ここにある未来や共に心を一つにするアートの思想に深く共鳴していきました。

舞との出会い

311を契機に引っ越したことでさらに忙しくなり、疲労がたまったのか免疫力が低下し、食について学び続けていたものの、食だけではいまひとつ超えられない何かがあると感じていた時期に、ママ友の紹介で作家で舞踏芸術家の千賀一生先生の教えに出会いました。

人工物に囲まれた現代社会で大地が弱り、人もまた弱っているのではないかと感じていた私にとって、踊る前に自然体出来るだけ戻っていくよう考えられたストレッチやリラクゼーション、呼吸の時間を重視する講座内容は、とてもありがたく、すぐに共鳴を覚えました。

しかしながら、スポーツ音痴で、踊りにも先入観があった私にとって、正直ダンスへの興味はありませんでした。

こちらが千賀先生の有名なベストセラーシリーズ『ガイアの法則』です。最近では『ガイアの法則IV』に当たる、『宇宙システム』が出版され、人類は最初から計り知れない大きな存在に抱かれ、育まれてきたという衝撃的な内容が示されています。

レイチェル教授には、現時点で英訳されている本『タオ・コード』を、紹介する予定です。こちら、少数民族や古代の神聖舞踊の研究を重ねてきた千賀先生の著書です。

現代の私たちが想像する見せる舞、エンターテインメント性のある舞ではなく、古来は中心とつながる舞、自然界の精霊との交感の舞であったことが記されています。こういう踊りなら私もしてみたいかも、と思ったのを覚えています。

レイチェル教授のダンスの在り方とも共鳴する点があるのではと思います。

舞にとどまらず、人間本来の生きる道を考え直すような内容です。



外国人客を魅了する調和的的空間

和文化や伝統芸能が今や世界的に注目を集めていることをさまざまな実践を通して肌で感じてきました。10月4日に、私がとても大事だと思っていることを皆様と分かち合いたいと思っています。その一つに、日本文化が「空間」を重視しているという点があります。

日本国外からお越しの方々のほとんどは楽しみに、前向きにセッションに参加していただきますが、中には最初半信半疑でいらっしゃったり、乗り気でなかったり、ご家族のグループでなく、お互いが初対面という場のときは、雰囲気さがこちなかったり、他国の人へあからさまに顔を顰めたりする方も稀にいらっしゃいます。

ところがある空間の響きに触れると、言葉を介さずにリラックスして笑顔になったり、感動して涙を流したり、国境を越えて心を通わせる—そうした力があるのを、肌で感じてきました。どうしてそんなことが起こるのか、4日は皆さまでも考えていきたいと思っています。

空間を整えるということは、数多の名もなき先人、私たちのひいおばあちゃんやひいひいお祖父ちゃんたちが、この国に残してくださったかけがえのない叡智であり、日常的に大事にされていたことでもあります。

落ち葉がひらひらと重力に委ねて舞い落ちる様子は、まるで我を感じさせず、舞のようで美しい。こういう姿に出会うとき、自然こそが私に「在り方」を教えてくれる師であると感じます。

elegant simplicity

(※) 「エレガント・シンプリシティ：「簡素」に美しく生きる」サティシュ・クマール著

舞もまた、古代においては人に見せるためのものではなく、落葉の舞のように、時が満ちればその時の位置に執着せず、重力に委ねて落ちる、それもelegant simplicityと言え、その姿は意図せずして美を生むものでした。私たちの祖先には、このelegant simplicityを、無言で伝えてくださっていた方々がたくさんいらっしやったのです。



故 佐竹真理子先生

この弓道家の姿をご覧ください。

言葉を発せずとも、空間にハリを与え、周囲が静まるのが写真でも伝わります。

茶道、箏曲、着付け、華道、雅楽、神楽舞に触れてきた経験から、なるほどと共通する核心が、私なりに見えてきました。



この「空間形成」は、弓道に限らず、茶道、柔道、剣道、合気道などの「道」の文化、さらには能楽や神楽といった伝統芸能、日本建築にまで通底しています。

千賀先生からは、多くの伝統芸能の歴史を遡って行くと、そうした所作の文化の基礎は、日本古来の舞文化に行き着くこと、舞を学ぶと和文化や伝統芸能が深まると教えていただきました。

これについての見解も4日にお話させていただきたいと思いますが、

もっと詳しく知りたい方には、千賀一生先生のこの『和の心 コズミックスピリット』という書籍をお勧めしています。私は中学生への茶道授業でもこの本を紹介しています。

若い世代の自殺数が年々増加している中、きっと温かい灯火が心に蘇ってくると信じていることができる内容です。



毎年地元で開催している真菰の輪飾り作りWS

かつて日本では、言葉を越えた「佇まい」が何よりも重んじられ、師匠は寡黙に、弟子は何十年もかけてそこから学び取っていったといいます。

10月4日の講演ではこの話をより詳細に考察し、またWSでは、この空間形成を、お盆や湯のみ茶碗など会場にあるものをお借りし、皆さんにも体で感じていただこうと思っています。

なぜこれほどまでに和文化や伝統芸能が注目されているのか、かつてない大きな節目のように感じます。世界が無意識に求めていることが、そこに秘められているからかもしれません。

もしその一端でもご紹介できるのであれば、私にとってこの上ない喜びです。

伝統音楽、そして大地の恵みを味わうリフレッシュメント

なお、当日は、私から参加者の皆さまへの歓迎と感謝の気持ちとして、ちょっとしたギフトタイムもご用意しています。

短い曲ではありますが、古今和歌集からの句を綴ったお琴を演奏いたします。

大和言葉の言霊に秘めた美しさや力強さ、江戸時代に作曲された懐かしい調べ、古の日本にタイムスリップした気持ちで、聴覚から想像力を広げていただけたらと思います。



もう一つ。ここ14年ほど、細々とゆるやかに学びを続けてきた中国茶の経験を活かし、小さな茶杯で皆さまに美味しいお茶をお淹れいたします。



参加者の皆さま一人ひとりにお抹茶を点てて差し上げるには時間がかかりすぎるため叶わず、でも諦めるのは残念だと考えていたところ、この方法を思いつきました。

レイチェル教授を交えた一期一会のお茶のひとときに、キャンドルの灯りとともに、日本の自然栽培のお茶を味わっていただき、リフレッシュしていただければと思います。

どうぞお楽しみに。

静寂で心地よい秋のひとときをお過ごしいただければ幸いです。

